

# 我が校の強み弱み分析・評価シート

## ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【結果について】

### 《概要》

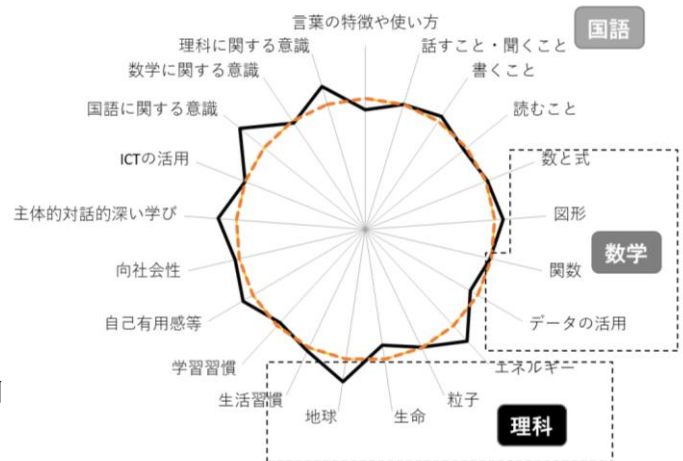
国語・数学・理科いずれも滋賀県の平均正答率及び平均IRTスコアを上回りました。  
 数学・理科は、全国の平均正答率及び平均IRTスコアを上回りました。国語は、同水準の結果でした。  
 国語では、「書くこと」に関する設問で正答率が高い結果でしたが、「読むこと」に関する設問で課題が見られました。数学では、「図形」に関する設問で正答率が高い結果でしたが、「データの活用」の設問で課題が見られました。理科では、「エネルギー」「地球」に関する設問で正答率が高い結果でしたが、「生命」の設問で課題が見られました。質問紙調査では、「自己有用感」「向社会性」「主体的・対話的で深い学び」「国語に関する意識」「理科に関する意識」の項目で全国の平均を上回る回答の結果でしたが、「学習習慣」の項目で課題が見られました。

### 《強み・弱み》

国語・数学・理科ともに「思考・判断・表現」を問う設問で全国平均を上回りましたが、国語・数学では、「知識・技能」を問う設問で平均を下回りました。強みとして、国語・数学・理科ともに、これまでの本校の課題であった自分の考えを表現したり、論理的に説明したりすることについて力をつけている一方、弱みとして基礎的な知識や技能の定着の不足が伺えました。

質問紙調査の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりできているか」を問う設問で、88.6%が肯定的な回答を示すとともに、国語・数学・理科に関する意識の調査で、いずれも肯定的な回答が高い割合を示したことから、安心感のある人間関係と生徒の主体的な取組が、思考や表現力の向上に繋がったものと考えられます。一方、「平日どのくらい勉強時間を確保できているか」を問う設問では、「1時間以上」取り組んでいると回答した生徒が61.6%で、全国の回答と比較してもやや低く、昨年度の調査結果78.6%と比較しても家庭学習の習慣が今回の結果に至った要因のひとつと考えられます。

「自分にはよいところがあると思うか」を問う設問では、86.8%が肯定的な回答を示し、さらに、「友達関係に満足しているか」という設問では、95.3%、「学校に行くのは楽しいと思うか」という設問では、96.3%が肯定的な回答でした。いずれも全国の回答と比較して高い回答結果でした。多くの生徒が「自己有用感」を感じ、まわりの友人と良好な関係で生活できている様子が調査結果から伺えます。



※破線は全国平均を表しています

## 【指導の充実に向けて】

- ・学校全体でユニバーサルデザインの視点を取り入れて校内研究に取り組み、居心地・学び心地のよい学校づくりや授業改善を進めています。今回の調査結果から、生徒の学習に対する肯定的な意識や「自己有用感」や「良好な人間関係」が、「思考・判断・表現」の学力向上に繋がっていることが伺えます。これまでの取組を引き続き進めるとともに、家庭学習の習慣を視点に加え、基礎的な知識や技能の定着が高められるよう学校全体の取組の改善を進めていきます。また、肯定的な回答ができなかった生徒に目を向け、より丁寧に生徒の課題に寄り添える取組を進めていきます。